

国民の主食・コメの義務的輸入をやめて、流通管理に責任をもつ農政へ転換を！

——外国産米の輸入と、米(コメ)流通の自由化が招いた、汚染米の広がり——

ご近所のみなさん、日本共産党です。

臨時国会が始まり、麻生新内閣が発足しました。

大企業ばかり応援して、国民に痛みを押しつけ、貧困と格差を広げてきた「構造改革」に、反省も打開策もない内閣です。行き着く先は、消費税一〇パーセントへの、増税路線——たまったものではありません。

世界的な原油や食糧の値上がり、アメリカ発の金融不安が、日本経済そのものを、脅かしています。

国民に痛みを押しつけて、内需を冷え込ませてきた、日本経済の「もろさ」を克服するために

も、家計を暖める政策への転換が、必要ではないでしょうか。

麻生新内閣は、こうした国政の基本問題について、徹底的に議論をして、争点を明らかにするべきです。その上で、解散・総選挙をやって、国民の審判を受けるべきです。

みなさん。

解散・総選挙が、いよいよ、間近に迫ってきました。

今日は、社会的な大問題になっている、「**汚染米問題**」について、お話ししたいと思います。

汚染米の不正転売問題の広がり、本場に深刻です。

残留農薬やカビ毒に汚染された、輸入米などが、保育園や学校、病院、福祉施設で給食に使われ、おにぎりとしてコンビニでも販売されていたことが、次々と明らかになっています。

福田内閣の時の農水産大臣が、辞任し、悪徳業者が摘発されたのは、当然のことです。

問題は、なぜこのようなことが起こったのか、くり返さないようにするには、どうしたらよいのかです。

みなさん。

転売された汚染米の約八割は、輸入米でした。

汚染米と知りながら輸入し、工業用のりなどへの需要がほとんど無くても、「非食用」を建て前に、食品加工業者に流通させ続けた、農水省の責任は重大です。

日本では、コメの自給は、十分可能です。

ところが、農家にコメの作付けを制限する、四割もの減反を押しつけて、輸入を続けてきたのが、自民党農政です。

政府は、一九九三年に、多国間の通商交渉・(ウルグアイ・ラウンド)で、アメリカなどの圧力に屈して、**毎年毎年七十七万トンものコメを、輸入し続けてきました。**

汚染米を、輸出国に返品するだけではなく、義務でもないコメ輸入は、きっぱりと中止するべきではないでしょうか。

「安全な食料を日本の大地から」というのは、国民みんなの願いです。

日本共産党は、食の安全と、世界的な食料危機克服のために、コメ輸入をやめ、三十九パーセントにも落ち込んだ日本の食糧自給率を、**高める政策への転換を進めます。**

みなさん。

汚染米の流通経路の複雑さに、驚いていらつしやるのでは、ないでしょうか。

この、複雑な経路の中で、汚染米を食用に偽装したり、価格つりあげが行われてきました。

自民・公明の小泉内閣の時——二〇〇四年、それまで登録制だったコメの売り買い業者を、届け出制にして、規制を完全に撤廃したのは、大問題です。

こうして、コメの売買に誰でも参入できるようにしてしまったことが、悪徳業者を横行させたのではないのでしょうか。

日本共産党は、コメの貿易と流通を自由化する政策を、根本的に見直して、食の安全に責任を果たす体制を、推進させます。

食料主権と食の安全を守る、農政への転換を進める、日本共産党をよろしく願います。